

社会科学学習指導案（地理的分野）

日 時 令和6年5月31日（金）公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年D組 34名
会 場 2C2D教室
授業者 中 村 功 佑

1 単元名 第3部 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は、昨年度に世界の諸地域の学習を通して、人々の生活はその土地の気候や地形の影響を受けること、それぞれの地域においてさまざまな地理的課題が見られることを学んだ。また、小学校で日本の気候や産業の分布について学習し、同じ国内でも地域によって気候が異なることや、地域ごとに発展している産業に偏りがあることを理解しており、地理的な事象について十分な知識を有していることがうかがえる。一方で、「日本の地域的特色は何か」と問うと、個々の事実の羅列に終始する生徒が大半である。地理的な事象を結びつけることができず、ものごとを多面的・多角的に見る力に課題が見られる。

他のウェルビーイングを実現するために社会科が果たす役割は、持続可能な社会に向けて解決すべき諸課題を的確に捉え、その中に内在する社会的対立やジレンマに対処する力を身に付けさせることであると考えられる。国立教育政策研究所がまとめた「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」によると、「人を取り巻く環境に関する概念」として、多様性・相互性・有限性の3つの視点が挙げられている。本単元では、この3つの視点を意識した問いによって日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信を捉え、複数の地理的を有機的に結びつけながら日本全体の地域的特色を説明できる力の向上を図りたい。

(2) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領の地理的分野C「日本の様々な地域」を構成する中項目(2)日本の地域的特色と地域区分を取り扱う。この中項目は、分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、我が国の国土の地域的特色と地域区分の方法や意義を理解できるようにすることが求められる。

日本は豊かな自然環境や多彩な文化を有し、多岐にわたる産業が見られるなど、世界に誇る素晴らしい地域的特色をもつ国である。生徒は、前単元で身近な地域の調査を行い、それらの特色が周辺地域に見られることを実感することができた。一方で、昨今、気候変動や地震等の災害リスク、エネルギー問題や産業構造の不均衡化など、持続可能な社会を実現する上で避けては通れない問題が顕在化している。自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の4つの視点における持続可能な社会に関わる学習課題を設定し、地域を区分することによって構造化し、概念的知識として捉えさせたい。地理分野の学習の集大成となる中項目(4)地域の在り方において、持続可能な社会を実現するための手立てを構想する基盤となる学習活動を展開したい。

(3) 教科研究との関わり

本校社会科では、教科主題を「問題発見力を高め、納得解を導き出すことができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力(表)を以下のように整理した。

表 本校社会科で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・ 個別の知識を構造化、体系化することで概念的知識として捉え、問題場面において活用する力。・ 社会的課題について、未来志向の視点から捉える力。・ 課題解決までの道筋を自ら考え、解決すべき問いを明らかにする力。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な社会を実現するための課題を発見し、社会への関わり方を選択・判断する力。・ 他者との対話や関わりを通して、自分の考えを再構築したり合意形成を図ったりする力。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">・ 問題に粘り強く取り組む中で自己の学びを調整したり、問題を発見したり、提案したりするなど課題の解決に関与する力（社会参画意識）。

また、国立教育政策研究所が整理した「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」である、多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任性の6つの概念を問いの視点として設定し、生徒に明示的に示した。最終的に生徒自らが6つの視点を働かせ、未来志向の課題に取り組めるようにしていく。

研究の視点① 個別最適な学びと協働的な学び

単元後半の学習課題を「日本全体の特色を説明するには、どのように地域を区分すれば良いか。」と設定し、自然環境、人口、資源エネルギーと産業、交通・通信の中から、生徒自身が日本の地域的特色として最も重要だと考える視点を選択させた。生徒が、自身が選んだ視点を単元の学習の中核に据え、視点ごとに軽重をつけて調査したり、他の視点との関係について考えたりできるようにする。

また、単元の終盤では、自身が見出した地域的特色について、他者との対話による論証を行う。三角ロジックで自らの主張を伝えることで、自分の主張の妥当性に気がつかせる。また、相手の主張から自らの考えを広げ、多様な他者と協働しながらお互いが納得できるような結論を導き出せるようにする。

3 単元計画

(1) 単元の目標

- ・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の視点から我が国の国土の特色を大観して理解し、主題図や資料を基に地域区分する。【知識及び技能】
- ・日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に基づく地域区分の視点から考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・日本の地域的特色について、単元の課題を解決する見通しを立てて、学習を振り返ったり見直したりして、課題を追究し解決しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の観点から我が国の国土の特色を大観して理解し、主題図や資料を基に地域を区分している。	日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に基づく地域区分の視点から考察し、適切に表現している。	日本の地域的特色について、単元の課題を解決する見通しを立て、学習を振り返ったり見直したりして、課題を追究し解決しようとしている。

(3) 単元の指導計画と評価計画（14時間） 評定に用いる評価（●） 学習改善につなげる評価（○）

時	主な学習活動	指導の手立て	関連する評価の観点			評価【方法】
			知技	思判表	態度	
1	・諸外国の日本に対する意識調査から、単元の学習課題を設定する。	・資料をもとに、日本の地域的特色に目を向けさせ、単元の課題意識を高められるようにする。			○	学習前の考えを記述し、学習の見通しをもっているかを評価する。 【ワークシートの記述】
単元の学習課題①：日本の自然環境にはどのような特徴があるか。						
2	日本の山は、どのような場所に広がっているか。 ・日本の主な山脈をまとめた動画から、学習課題を設定する。 ・教科書や資料集を用いて、日本の山の広がりの特徴を捉える。	・理科の学習で学んだプレートの働きをもとに、山脈の広がりを分布図で捉えられるようにする。	○			<2～4時間目> 資料から読み取った内容を端的にまとめ、地域区分図に表すことができているかを評価する。 【ワークシート、ノートの記事内容】
3	日本の平地や近海には、どのような特徴があるか。 ・河川の河況係数の資料から、川が平地に与える影響を想起し、学習課題を設定する。 ・教科書や資料集を用いて、扇状地と三角州の特徴を説明する。	・学習用端末で実際の扇状地と三角州の様子を調べることで、より具体的な地形の様子を捉えられるようにする。	○			

4	日本の気候は、なぜ地域ごとに異なるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの共通点と相違点から生徒自身に問いを持たせ、主体的に解決できるようにする。 	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の北海道と沖縄の写真を比較し、学習課題を設定する。 ・気候区分図と雨温図、地図帳を用いて、各地域の気候の特徴が見られる理由を説明する。 				
5 6	身の回りで自然災害が発生したら、どのような行動を取れば良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における自助、公助、共助の視点を確認し、複数の視点から具体的な行動計画を考えられるようにする。 		●	ハザードマップや地形図を根拠に、具体的な行動計画を作成しているかを評価する。【ワークシートの記述】
	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで起こり得る自然災害を想起し、学習課題を設定する。 ・ハザードマップをもとに、洪水が起きたときの行動計画を作成する。 				
7	<ul style="list-style-type: none"> ・単元課題①に対する学習後の考えを記述する。記述した内容を説明するための地域区分図を白地図上に表す。 ・自然環境以外の地域的特色を想起し、単元課題②を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックをもとに、複数の視点を関連付けた、より重要な地域的特色に目を向け、単元後半の学習に見通しをもてるようにする。 	●	●	学習後の考えを記述し、単元後半の学習の見通しをもっているかを評価する。【ワークシートの記述】
単元の学習課題②：日本全体の特色を説明するには、どのように地域を区分すれば良いか。					
8	日本の人口構成や人口分布は、どのように変化しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加率や高齢者の割合に関する主題図を収集させ、過疎・過密の問題にふれて特徴を説明できるようにする。 	○		<p>< 8～12 時間目 > 資料から読み取った内容を端的にまとめ、地域区分図に表すことができているかを評価する。 【ワークシート、ノートの記述内容】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・人口ピラミッドや分布図から日本の人口の特徴を想起し、学習課題を設定する。 ・人口に関わる複数の主題図をもとに、特徴を説明する。 				
9	2030 年度の目標エネルギー構成は実現可能か。	<ul style="list-style-type: none"> ・主な発電所の分布や再生可能エネルギーに関わる主題図を収集させ、エネルギー問題とその解決策にふれて特徴を説明できるようにする。 		○	
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー構成の内訳を示した資料から、学習課題を設定する。 ・資源・エネルギーに関わる複数の主題図から、エネルギー供給の特徴について説明する。 				
10 11	日本の産業には、地域によってどのような特徴があるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や気候、人口分布に関わる主題図と関連させて、自然及び社会条件によって産業の分業化が進んでいることを説明できるようにする。 	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・産業別人口の割合を示した資料から日本の地域ごとの特徴を想起し、学習課題を設定する。 ・産業ごとの分布図を示した主題図から、特徴を説明する。 				
12	交通や通信網の発展は、どのような影響を与えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・高速交通の整備や観光客の集客に関わる資料を収集させ、交通網の整備状況による格差にふれて特徴を説明できるようにする。 	○		
	<ul style="list-style-type: none"> ・国内輸送の内訳の変化を示した資料から輸送手段の発展を想起させ、学習課題を設定する。 ・交通網や通信網に関わる複数の主題図から、特徴を説明する。 				
13 14	地域区分図と地域的特色を交流し、新たな地域的特色を見いだそう。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習内容を生かし、日本全体の地域的特色を説明する上でより重要な要素について考え、地域区分図をもとに説明できるようにする。 	●		
	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習課題に対する見通しを交流し、学習課題を設定する。 ・複数の視点による地域区分図を作成し、地域的特色を説明する。 				
本時				●	単元の学習を通して学んだことを地域区分図に表し、特色を説明できているかを評価する。【ワークシート、ノートの記述】

4 本時について

(1) 目標

日本全体の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の中から複数の視点を組み合わせた地域区分を用いて説明することができる。

(2) 評価規準

自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の中から複数の視点を選択して地域区分図を作成し、それを用いて日本全体の地域的特色を説明している。【思考・判断・表現】

(3) 授業構想

本時は、地域区分図を交流し、グループで日本全体の新たな地域的特色について見いだす1時間である。

導入では、他学級での議論の様子を紹介し、ルーブリックを提示した上で本時のグループ活動の目的を確認する。生徒がまとめた地域的特色は、自分の興味関心に基づく特色であるが、交流を通してより重要な地域的特色を見いださせることを意識づけたい。展開の前半では、4人グループで地域区分図を交流し、妥当性を検証する。展開の後半では、完成した地域区分図をもとに、グループで新たな地域的特色を見いだす。交流は、主張・根拠・理由づけの三角ロジックを意識して行い、互いが納得できる結論を導き出すことを目指す。必要に応じて個別の支援や全体共有を行うことで、新たな地域的特色を見いだしたり、日本の持続可能性に関わる地域的特色について考えたりできるようにしたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入	1 グループ交流の目的を確認する。 2 本時の課題を設定する。	・他学級で作成した地域区分図を提示する。 ・ルーブリックを提示する。
3	地域的特色と地域区分図を交流し、新たな地域的特色を見いだそう。	
展開	3 グループで、地域的特色と地域区分図の妥当性を検証する。 ・地域的特色を複数の視点から説明できているか。 ・さらに追加すると良い視点や資料はないか。 ・選択した資料や視点は適切か。 4 グループ交流をもとに、地域区分図をブラッシュアップする。 5 グループで、新たな地域的特色を見いだす。 ・同じような特色をもった地域はないか。 ・ある地域を中心に周辺に影響を与えていないか。 6 全体で交流する。	・個別の支援や全体共有を行い、地域区分図の視点を充実させる。 ○作成した地域区分図と地域的特色の説明 ・議論の深まりが見られるグループには、多様性、相互性、有限性の視点からより重要な地域的特色に目を向けさせる。 ・考えの深まりが見える生徒を指名する。
40		
終結	7 本時の振り返りを記述する。	
7	<p>【生徒の記入例】</p> <p>日本の人口分布には地域的な偏りがあることを、自然環境と産業の視点を組み合わせて説明しようと思い地域区分図を作成した。グループ交流で交通網の発展の視点で地域区分図を作成した友達の発表を聞いて、交通手段が発展している地域とそうではない地域で人口分布や産業の発展に偏りが見られるという地域的特色があるのではないかと考えた。</p>	